

Economic Indicators

定例経済指標レポート

指標名: 国際収支(2006年12月)

発表日2007年2月14日(水)

～配当金支払の増加により所得収支が減少～

第一生命経済研究所 経済調査部
 担当 副主任エコノミスト 長谷山 則昭
 TEL : 03-5221-4525

| | | 原数値 | | | | 季調値 | | | |
|----|---------|-----------|--------|--------|-------|-----------|--------|--------|--------|
| | | 経常収支 | | | | 経常収支 | | | |
| | | 貿易・サービス収支 | | 所得収支 | | 貿易・サービス収支 | | 所得収支 | |
| | | 前年比 | 前年比 | 前年比 | 前年比 | 前期比 | 前期比 | 前期比 | 前期比 |
| 05 | 10-12月期 | 13.6 | ▲ 8.2 | ▲ 18.6 | 30.1 | 20.8 | 30.7 | 10.0 | 12.7 |
| 06 | 1-3月期 | 18.5 | ▲ 13.5 | ▲ 28.2 | 42.0 | ▲ 4.1 | ▲ 9.4 | ▲ 6.1 | 7.2 |
| | 4-6月期 | ▲ 3.0 | ▲ 24.5 | ▲ 17.4 | 15.8 | ▲ 15.3 | ▲ 28.1 | ▲ 11.7 | ▲ 7.7 |
| | 7-9月期 | 11.4 | 6.0 | ▲ 0.1 | 17.6 | 8.2 | 10.7 | 1.3 | 4.6 |
| | 10-12月期 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 24.7 | 68.0 | 42.3 | 3.6 |
| 05 | 12月 | 16.1 | ▲ 9.9 | ▲ 16.8 | 39.6 | 27.6 | 16.4 | 2.1 | 29.1 |
| 06 | 1月 | 2.5 | 赤字 | 赤字 | 33.7 | ▲ 18.5 | ▲ 13.9 | ▲ 20.8 | ▲ 10.6 |
| | 2月 | 10.8 | ▲ 7.0 | ▲ 11.8 | 32.9 | 6.6 | 8.3 | 28.8 | 3.6 |
| | 3月 | 34.3 | 6.7 | ▲ 6.8 | 58.0 | ▲ 1.7 | ▲ 18.0 | ▲ 14.3 | 9.6 |
| | 4月 | ▲ 17.7 | ▲ 59.4 | ▲ 32.8 | 12.7 | ▲ 30.5 | ▲ 64.2 | ▲ 36.0 | ▲ 15.6 |
| | 5月 | 16.8 | 29.5 | 11.1 | 15.8 | 32.7 | 259.5 | 86.7 | ▲ 10.5 |
| | 6月 | ▲ 6.4 | ▲ 13.3 | ▲ 12.2 | 23.7 | ▲ 2.4 | ▲ 40.8 | ▲ 26.4 | 29.5 |
| | 7月 | 5.1 | ▲ 11.8 | ▲ 8.3 | 22.9 | 9.1 | 48.2 | 25.8 | ▲ 8.2 |
| | 8月 | 21.1 | 361.8 | 36.2 | 11.2 | ▲ 6.0 | ▲ 2.5 | ▲ 3.9 | ▲ 8.2 |
| | 9月 | 10.9 | 6.5 | 0.2 | 20.3 | ▲ 11.2 | ▲ 60.3 | ▲ 45.6 | 18.2 |
| | 10月 | 5.2 | ▲ 36.0 | ▲ 18.9 | 36.3 | 43.4 | 197.9 | 94.9 | 10.0 |
| | 11月 | 21.5 | 69.0 | 48.3 | ▲ 6.6 | ▲ 3.4 | 50.1 | 46.0 | ▲ 33.4 |
| | 12月 | ▲ 5.0 | 13.2 | 15.2 | ▲ 9.0 | ▲ 4.0 | ▲ 37.1 | ▲ 31.2 | 41.2 |

(出所)財務省、日本銀行「国際収支統計」

○ 12月の経常黒字額は前年比▲5.0%と減少

12月の経常黒字額は前年比▲5.0%の17,768億円(原数値)と6ヶ月ぶりに前年を下回った。内訳をみると、貿易収支の黒字幅が拡大したものの、サービス収支の赤字幅が拡大したこと、所得収支の黒字幅が縮小したことが全体を押し下げた。

○ 配当金支払が増加し、所得収支の黒字額が減少

貿易黒字額は前年比+15.2%と増加した。輸出金額は自動車や鉄鋼、半導体等電子部品の輸出増から前年比+8.6%(前月同+11.8%)と前月から伸びが鈍化したものの底堅い動きとなった。輸入金額は非鉄金属や液化天然ガスの輸入が増加基調にあることから前年比+7.2%(前月同+6.7%)と前月から小幅伸びが拡大した。輸出が底堅く推移していることから貿易黒字額は引き続き前年を上回って推移した。

サービス収支は、「旅行収支」の赤字幅が縮小したものの、「輸送収支」の赤字幅が拡大したこと、「その他サービス収支」の黒字幅が縮小したため赤字幅が拡大した。旅行収支は日本への入国者数の増加を反映して赤字幅が縮小傾向となっている。一方、輸送収支は、「航空輸送」や「海上輸送」において、これまでの原油価格上昇分を運賃に価格転嫁していることが赤字幅の拡大につながった。

所得収支は前年比▲9.0%と2ヵ月連続で黒字幅が縮小した。外国債券の受取利子が対外資産の累増を背

景として引き続き増加したものの、「直接投資収益」および「証券投資収益」の中の「配当金支払」が増加したことから所得収支は前年を下回った。業績好調な企業が配当を増やしていることから、海外投資家への配当金支払が増加した。

○経常黒字額は増加基調で推移する見込み

先行きについては、対外資産の増加などから基調的には所得収支は黒字額の拡大が続くとみられる。サービス収支も日本への入国者数の増加等を背景に基調としては赤字額が縮小する可能性が高い。また、貿易収支についても原油価格の下落によって輸入金額の伸びが鈍化傾向にあることから、黒字額は増加基調を辿る見込みだ。足元の原油価格の動向をみると、12月は1バレル58.54ドル（輸入C I F価格）と11月の1バレル59.82ドルから下落している。昨年夏場をピークに基調としてみれば下落しているWTIの動向から判断すれば、原油価格の前年対比伸び率は今後も低下する可能性が高い。原油の輸入量も減少傾向であり、輸入金額伸びは鈍化する公算が大きいといえる。一方、輸出金額についても鈍化傾向にあるが、海外経済の減速は小幅なことから輸出金額の減速は緩やかと考えられる。輸出金額を上回るペースで輸入金額の増勢が鈍化傾向にあることから、貿易黒字額は緩やかながらも増加傾向を辿る可能性が高いと判断する。

貿易収支および所得収支が黒字額を拡大すると考えられることに加え、サービス収支の赤字も縮小する見込みであるため経常黒字額は増加基調が続こう。

